

(トップページ: <http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/>)

(MENA: <http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/MenaOicCountries.html>)

マイライブラリー:0191

2011.7.24

前田 高行

世界のイスラム信者(ムスリム)人口

本稿は米国ワシントンに本部を置く調査機関 Pew Research Center が公表した「The Future of the Global Muslim Population, Projections for 2010-2030」に基づき、世界のイスラム教徒(ムスリム)の人口動態を分析したレポートである。なお各国の総人口については国連人口基金(UNFPA)のデータを使用している。

* Pew Research Center Homepage: <http://pewresearch.org/>

The Future of the Global Muslim Population, Projections for 2010-2030:

<http://pewresearch.org/pubs/1872/muslim-population-projections-worldwide-fast-growth>

1. 2010年のムスリムの人口:国別ではインドネシアがトップ

(表<http://members3.jcom.home.ne.jp/maeda1/1-1-2-91MuslimPopulation1990,2010&2030.pdf>参照)

2010年の全世界のムスリムは16億人と推定される。これを国別に見ると最も多いのはインドネシアの2億5百万人であり、全体の13%を占めている。インドネシアに次いで多いのはパキスタン(1.78億人)、インド(1.77億人)及びバングラデシュ(1.5億人)である。これら4カ国がムスリム人口1億人以上の国であり、4カ国だけで世界のムスリムの約半数(45%)に達する。第5位から10位までは、エジプト(8千万人)、ナイジェリア(7,570万人)、イラン(7,480万人)、トルコ(7,470万人)、アルジェリア(3,480万人)、モロッコ(3,240万人)である。

更に11位以下20位までの国を列挙すると以下のとおりである。

イラク(3,110万人)、スーダン(3,090万人、但し南北分裂前)、アフガニスタン(2,910万人)、エチオピア(2,870万人)、ウズベキスタン(2,680万人)、サウジアラビア(2,550万人)、イエメン(2,400万人)、中国(2,330万人)、シリア(2,090万人)、マレーシア(1,710万人)

これら上位20カ国のうち3位のインドと18位の中国を除く18カ国は国内人口の殆どがムスリムでありOIC(イスラム諸国会議)に加盟している。しかしインドではムスリムが全人口に占める比率は15%であり、中国のそれは1.7%と、いずれもムスリムは少数派である。

2. 非ムスリム国のムスリム人口:米英仏独に3~5百万人

(表<http://members3.jcom.home.ne.jp/maeda1/1-1-2-91MuslimPopulation1990,2010&2030.pdf>参照)

2010年の世界人口69億人のうち、ムスリムは16億人であり、世界人口に占めるムスリムの比率

は 23%と推定される。つまり世界のほぼ 4 人に1人がムスリムである(因みに世界で最も信者数が多いのはキリスト教徒で20億人超)。

非イスラム国のうちムスリム人口が多いのは上述のとおりインドと中国である。インドのムスリムは 1.77 億人、世界で 3 番目に多く、中国も世界 18 位 2,330 万人のムスリムを抱えている。またロシアのムスリムは中央アジアを中心に 1,640 万人である。このほか欧米先進国にも多数のムスリムがおり、その数はフランスが 470 万人、ドイツ 410 万人、英国 290 万人、米国 260 万人と推定されている。

ムスリム人口ではインドが飛びぬけて多く、中国及びロシアもそれぞれ 2 千万人前後を抱えている。一方米英独仏の 4 カ国はいずれも 3~5 百万人であり 3 カ国に比べて一桁以上少ない。しかし各国の全人口に占めるムスリムの比率を比べると若干様相が異なってくる。インドのムスリム人口比率は 15%であり、比率の面でも 7 か国のトップであるが、2 番目に比率が高いのはロシアであり、同国のムスリム比率は 12%である。これに次ぐのがフランス(7.5%)であり、以下ドイツ(5.0%)、英国(4.6%)、中国(1.7%)、米国(0.8%)の順である。

欧米各国にムスリムが移住した経緯はさまざまであるが、フランスの場合はアルジェリア、チュニジアなどの北アフリカ・マグレブ諸国からの移民が多い。またドイツはトルコから、英国はパキスタンからの移民が多い。これらはいずれもかつての植民地である。世界各国から移民が集まる米国の場合はイスラム諸国からの移民も少なくない。さらにかつてのアフリカ西海岸のイスラム圏から送られた奴隷の子孫がキリスト教からイスラム教に改宗する例もあり(例えば、ボクシングのモハメッド・アリのケースなど)、米国内のムスリムは増加していると言われる。

フランスはこれまで移民に対して比較的寛容であったため急増した。同国のムスリム人口は 1990 年に 57 万人であったが、2010 年には 8.2 倍の 470 万人に激増し、全人口に占める比率も 7.5%に達している。ドイツや英国もほぼ似たような形で過去 20 年間にムスリムが急増して全人口の 5%を占めるようになっていく。仏独英は第二次大戦前の植民地時代からの深い関係に加え経済成長時代にかつての植民地を安い労働力の供給源とみなして移民を奨励してきた。これらの国々でイスラムに関連する問題が続出している背景にはこのような歴史的な事情があると見て間違いのないであろう。

これに対し中国及び米国は全人口に占めるムスリムの比率がかなり低い(中国 1.7%、米国 0.8%)。中国については少数民族のムスリムに対する弾圧が問題視され、これに対して中国政府は内政干渉と反発している。また米国では国内で強硬なイスラムテロ対策が行われている。このため将来両国でムスリムに関連した大々的な騒擾事件が起こるとは考えにくい。

3. 過去 20 年と今後 20 年: 増え続けるムスリム

(図<http://members3.jcom.home.ne.jp/maeda1/2-1-2-91MuslimVsNonMuslim.pdf>参照)

1990 年、2010 年及び 2030 年の世界のムスリムと非ムスリムの人口比率を見ると、1990 年はムス

リム 11 億人、非ムスリム 42 億人で、総人口に占めるムスリムの比率は 19.9%であった。世界人口はその後も増加を続け 2010 年には 69 億人(ムスリム 16 億人、非ムスリム 53 億人)となり、2030 年には 83 億人(ムスリム 22 億人、非ムスリム 61 億人)になると見込まれている。

世界人口は過去 20 年間(1990~2010 年)で 1.3 倍に増え、今後 20 年間では 1.2 倍に増加することになる。これに対しムスリムの増加率は世界平均を上回り、過去 20 年間では 1.5 倍、今後 20 年間では 1.4 倍であり、ムスリム人口は 40 年間で倍増する(11 億人→22 億人)。この結果、世界の総人口に占めるムスリムの比率は 1990 年の 19.9%から漸増し、2010 年には 23.4%、2030 年には 26.4%に達し、4 人に 1 人以上がムスリムということになる。

因みに日本のムスリム人口について PEW は 1990 年の 12 万人から 2010 年には 19 万人に増加したと推定している。しかし今後の 20 年間はむしろ減少し 2030 年は 17 万人である。PEW はほぼ全ての国で今後もムスリムが増加すると予測しており、ムスリム人口に関して日本は特異な位置づけにあると言えよう。

PEW の統計値を見る限り、今後(日本を除く)世界の各国はムスリム人口問題について極めて注意深い対応が必要となろう。

以上

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行 〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642
E-mail; maeda1@jcom.home.ne.jp